

令和2年度第1回 京丹波町地域包括ケア推進委員会

日時：令和2年7月31日（金）13時30分～15時25分

場所：瑞穂保健福祉センター2階 集団指導室・健康学習室

出席者：片山委員長、津田副委員長、
荒牧委員、岡本委員、寺谷委員、吉田委員、谷口委員、奥井委員、上田委員、村上委員、
藤田委員、大西委員、瀧村委員、堀委員、谷山委員、桐野委員、越川委員、塩貝委員
(18人)

欠席者：岡田委員（1人）

事務局：保健福祉課：岡本課長、島田補佐、西村係長、中川主任、原澤補佐

医療政策課：欠席

(福)京丹波町社会福祉協議会 地域福祉課：岬課長（京丹波町生活支援コーディネーター）

(医療政策課 中川課長欠席)

(株)ぎょうせい：成田

1 開会

2 委嘱状の交付

町長から吉田委員と上田委員へ交付

3 町長あいさつ

出席及び委員就任等へのお礼。

京都府においても新型コロナウイルス感染症の感染者数は増加、近隣市町においても発症者がでている。町としても取組を行っていきたい。この3年を期間とする計画は、できるだけ自分らしく暮らせるよう取り組みを進めている。本日は、多様な支援についてご意見をいただけるようご協議をお願いしたい。皆様のご理解とご協力を賜りたい。

4 自己紹介

各委員、事務局の順に自己紹介

5 委員長あいさつ

計画書の見栄えではなく、この地域に本当にあった計画ができるか、計画の中味が勝負である。どうぞよろしくをお願いしたい。

6 協議事項

(1) 各委員会等の設置要綱について

(説明：事務局 資料1説明)

質疑等なし

(2) 第8期介護保険事業計画の策定に係るアンケート調査結果について

(説明：事務局 資料2-1、2-2、2-3説明)

委員：移送サービスの要望が多いが、今、町からカーシェアリングによる移送サービスを検討してもらえないかという話があり、これから詳しい説明を受けるところであるが、いろいろと難しい課題があるように想像している。

委員：アンケート結果では移送サービスのニーズが高いが、実際の外出支援事業の実績は、それとは裏腹にサービス利用者が減っている。住民は移動の不便を感じ、移動の不安を抱えている中で、外出支援事業の実績が減っている。特に最近は、コロナの問題があり利用者が激減している。本年4月から対価の見直しをしたにもかかわらず、コロナの影響で収入が激減している。アンケート結果のニーズとは裏腹に利用実績がないという状況をどのように考えているのか。

事務局：ニーズ調査からも移送サービスについて充実に期待する声をお聞かせいただき、また以前からこの会議でもご意見ををいただいたところであり、保健福祉課と公共交通を担当しているにぎわい創生課、医療政策課などと連携し、3つの課で現状の把握や課題の共有のため、数回の意見交換を行ったところである。それぞれのニーズに対応した明確な案が見い出せない中ではあるが、先ほどお話のあったカーシェアリングについて地域の皆さんにご協力いただけないかといったことについても情報を共有させていただき、何か手立てはないかと話しをさせていただいている。本日この場で明確なお示しはできないが、引き続き協議を進めていきたいと考えているし、地域の方々にも協力いただけないか検討させていただきたい。

委員：地域別にニーズの差はないと思うが、実感として和知地域が少ないと感じているのか。

委員：全体的に減少していると思うが、一番減少が大きいのは和知地域である。なぜかと考えてみると、和知地域は人口が一番少ないのに送迎の事業所が一番多く、人口に対する送迎の割合は和知地域が一番多い、その理由は和知が山岳部で、他の地域に比べれば不便なところがある。ただし、減少割合は、和知が一番多い。あくまで想像であるが、これまでから丹波地域の方は致し方ない理由の時にだけ利用されてきたのかなと考えている。

委員：カーシェアリングという新たな事業を考えておられるようであるが、その事業にどういう見通しをもっておられるのか、使いたい時に便利に使えるものであればよいが、そうでもないだろうし、どのように考えておられるのか聞いてみたい。

委員長：外出支援事業の対象となっていない方からの要望、ニーズもアンケート調査には、出てきているのではないか。

- 委員：外出支援事業は、町に申請があって認められた方だけが利用できる制度であり、ニーズと現実の差はそのあたりにあるのではないか。
- 委員：自由記述の意見を読むと今後の不安を述べられているという方も多いと思う。
- 委員：カーシェアリングで心配しているのは、採算が取れるか、運転手が確保できるか、事故を起こした時の保険の問題などいろいろ問題がある。説明を受けてみないとわからないが、ニーズを把握しているわけでもデータを持っているわけでもなく、皆さんの意見を聞いてみたいところである。
- 委員長：運転手の確保は、非常に大きな問題で、第一線を退いた人が運転手の候補になるが、そういう人は、事故の心配する周りの人から止められることもある。運転される方に対するきちんとした保障も必要と思う。
- 委員：地域振興会の方がカーシェアリングという事業に取り組みられるのであれば、できるだけ制限を設けず利用できるかたち、福祉有償運送は一定福祉的な要素があり、利用を認められた方が利用できるというすみ分けを行う必要があると思う。対象となる方、事業の目的を明確にする必要がある。
- 委員：立場が違う人が一緒に考える必要がある。
- 委員：外出支援は利用にかなりの制限がある。制度の対象とならないもう少し元気な方の困りごとは日常の買い物という意見が多い。病院受診は、回数も知れている。介助の必要のない元気な方の日常の買い物などの移動を支援する制度は必要と思う。
- 委員：コロナ前に取ったアンケートであるとの説明であったが、新たな生活様式が求められる中で、コロナ前に取ったアンケートで計画を策定するのは困難ではないか。移動手段のニーズもコロナ前には大きなニーズであったが、外出自粛が求められた後は、外出する人が激減している。もう一度アンケートを行う考えはないか。
- 事務局：コロナについては、長い目で見ていかなければならないと考えているが、アンケートをもう一度実施することは考えていない。国の指針についても、災害や感染症への対応について方針が出されたので、これまでとは違う計画策定をしていく必要があると認識している。
- 副委員長：今後の事業所との意見交換を予定されいているので、コロナ以後の事業所の状況について聞き取りをしてもらい、アンケートで把握できない部分を把握していく方法も考えられる。いつまで続くか、どのように変化するかがわからない中で、3年間の計画を立てる必要がある、誰も確たることがわからない状況ではないか。3年間を区切り、状況が変われば変更していくという必要もあるのではないか。
- 委員：認知症カフェをずっと続けてきたが、コロナで開催できない状況となっている。認知症の初期の方の暮らしぶりなど非常に心配である。人と会わずに家の中で過ごすということは一番リスクが大きい。認知症の進行やフレイルも懸念される。工夫をしながら楽しく過ごせる場所を考えていかなければならない。非常に心配している。
- 委員長：コロナのため人と接することができないが、人と接することでフォローするのが福祉であって、これからどうするのかを一から考えて作り上げていかなければならない。人と会うことで元気をもらうという取組ができないことが大きな課題である。
- 委員：地区のサロンだが、3月から休んでいた。6月から再開したが、またすぐに休んでいる。介護相談と認知症相談を行っているが、MCI（軽度認知障害）の状態だとどま

っていた方が、認知症に近くなってしまった方が多い。サロンに行けていた方が家では車いすになった方、寝たきりになった方も多く、いかにみんなで集まる場所が大切であったかが休んでからよくわかるようになった。コロナの感染の心配とフレイル、MCIの増加というジレンマに陥っている。

委員：今はとてもサロンが開催できる状況にはないと思うし、参加者が高齢者であることを考えると休んだらよいと思っている。ただ、開催してあげたいという声もありジレンマがある。コロナですべての状況が変わってしまっている。このデータをもとに策定しても現実にそぐわないものになる。前に進むことができない以上、立ち止まって考えなおす必要がある。

委員長：福祉は人とのかかわりの中で施策を行っている。人とのかかわりが持てないなかで、何か別の方法を考えていかなければならないかもしれないが、このデータをもとに策定して対応できるのかという意見はもっともだと思う。今どうこうということは決められないと思うが、事務局でも検討してもらいたい。利用できるデータもあるだろうし、そのまま使えないことも出てくるかもしれない。全国同時に策定している計画であるし、情報を入手しながら、考え、取り組んでもらいたい。

委員：自由記述の中で、年金（額が少なく）、介護の負担や介護保険料の負担が心配であるという意見がある一方で、保険料が高くなってもサービスの充実を求める声もある。サービスの充実を求める声も数としては多いが、その裏では保険料が高くなると困るという声もたくさんある。そういう声を鑑みて今後の介護サービスがどうあるべきかをみんなで考えていく必要がある。治る見込みがないときは延命治療をやめてほしいという意見があったが、最終的な看取りの場面をどうするかということに考えを及ぼしながらサービスを考えていかなければならない。自由記述から学ぶところも多くあった。

委員長：経済的な問題は家庭によってそれぞれ事情が違う。全体的な部分と個別の部分にそれぞれ目を配りながら考えていく必要がある。

（３）第８期介護保険事業計画等の策定について

（説明：事務局 資料３－１、３－２説明）

委員：「PDCAサイクル」と一般には伝わりにくい言葉については、説明を入れてもらいたい。

委員長：そういう説明を入れてください。

委員：「健康寿命」という言葉が出てきているが、介護サービスをあまり使わないようにして長生きしろということか。

事務局：サービスを使うなどと言っているのではなく、健康に過ごせる期間を延ばそうということと考えている。健康であることで幸福度が高まり介護予防にもつながる。適切にサービスを利用いただいたらと考えている。

委員：高齢化が進んでも高齢者数自体は減っていくこともきちんと記載してもらいたい。

(4) 第8期介護保険事業計画等の策定スケジュール(案)について

(説明:事務局 資料4説明)

質疑等なし

7 閉会(副委員長あいさつ)

コロナの関係で生活スタイルが変わっている状況とその変化がいつまで続くか、いつ終わるかわからない中、計画を立てなければならない難しさを感じている。住民が幸せを感じてもらえる計画を立てる必要がある。皆さんの取組と課題などを聞かせていただきながらよい計画、よい事業を目指していきたい。